

行政評価(施策評価シート)

1 基本項目

基本目標4	ひとと環境にやさしい安全で快適なまち
基本施策2	自然と調和した安全で快適な都市の形成
施策29	道路
基本方針	だれもが安全で快適に利用できるよう道路機能の充実や適正な維持管理を図ります。

2 指標(長期総合計画目標指標)

指標名		現状	H24実績	H25実績	H26実績	H27実績	H28実績	目標値 (平成28年度)
指標1	重点整備地区内のバリアフリー整備延長	6.2 km	(平成22年度末) 6.2 km	6.2 km	6.2 km	6.2 km	6.2km	8.8 km

3 施策を構成する平成28年度事務事業の実施・評価結果

No	事業名	平成28年度実施結果			評価(所管課長)				指標に係る 重点事務事業
		決算/円	予算執行率	進捗状況	妥当性 (必要性)	効率性 (手法)	有効性 (成果)	方向性	
1	道路維持保全計画の推進	37,368,000	100.0%	計画どおり完了	○	○	○	A	
2	羽村駅自由通路の拡幅等整備	12,190,008	75.2%	計画どおり完了	○	○	○	A	
3	橋梁の耐震化	9,072,000	99.1%	計画どおり完了	○	○	○	A	*
4	セットバックの促進と隅切り整備	28,708,564	92.6%	計画どおり完了	○	○	○	A	
5	奥多摩街道間坂交差点整備に伴う周辺道路(市道第203号線)の整備	-	-	計画どおり完了	○	○	○	A	

4 施策評価

①施策の評価

道路の維持管理は、「道路維持保全計画」に基づき舗装の補修を行い、安全で快適に利用できる道路機能の保全を図るとともに、今後の道路舗装の修繕計画である「道路舗裝修繕実施プログラム」を策定し、快適な道路環境の整備を進めた。

橋梁の耐震化については、羽村堰下橋及び堂橋の耐震補強等工事を実施し、橋梁の安全・安心を確保した。

セットバックの促進と隅切り整備については、「狭あい道路等整備方針」に基づき地権者の協力を得られた箇所について整備を行った。また、市道第5013号線の拡幅及び隅切りの設置を実施し、狭あい道路の解消を図った。

重点整備地区内のバリアフリー整備については、順次整備していくための優先順位づけが必要となるが、絶えず変化する社会情勢や周辺環境に応じて見直しを要するため、整備が進んでいない。

羽村駅自由通路の拡幅等整備については、「青梅線羽村駅自由通路拡幅の施行に関する協定」及び「青梅線羽村駅自由通路拡幅に関する店舗支障移転の施工協定」に基づき、平成28年度においては、移転が必要となる自由通路内店舗の移転先の築物の基礎及び鉄骨躯体を完了した。

②今後の方向性(改善への取組み等)

道路の維持管理は、平成28年度に策定した「道路舗裝修繕実施プログラム」に基づき、計画的に道路の維持補修を実施していく。

橋梁の耐震化については、引き続き「橋梁長寿命化修繕計画」に基づき実施し、橋梁の安全・安心を確保する。

狭あい道路については、「狭あい道路等整備方針」に基づき、セットバックを促進するとともに、交差点の隅切り整備など拡幅事業を実施し、狭あいな道路の解消に努めていく。

また、道路のバリアフリー化や自転車走行環境の整備などに取組み、快適な道路環境の整備を図っていく。

羽村駅自由通路の拡幅等整備については、店舗移転が平成29年9月頃完了する予定で施工を行っており、その後、10月より自由通路の拡幅整備に着手する予定の為、だれでも安全・快適・便利に通路を利用できるよう、関係部署との調整を図り、自由通路の早期完成を目指していく。

平成28年度 【基本シート】

1.基本項目		作成部署	都市建設部			土木課
事業名		開始年度	実施期間	事業種別	運営手法	進行管理
1	道路維持保全計画の推進	平成 25 年	継続	自治事務	業務委託(全部)	
01	市道第202号線	平成 26 年	今年度限り	自治事務	業務委託(全部)	○
02	市道第1003号線	平成 27 年	その他	自治事務	業務委託(全部)	○
03	市道第2003号線	平成 28 年	今年度限り	自治事務	業務委託(全部)	○
04	市道第2091号線	平成 28 年	今年度限り	自治事務	業務委託(全部)	○
05	舗装構造評価 (FWD)調査	平成 28 年	継続	自治事務(市独自)	業務委託(全部)	
関連課						
基本目標	4	ひとと環境にやさしい安全で快適なまち	施策区分	29	道路	事業番号 4

2.事業の概要

事業内容 道路維持保全計画に基づき、安全で快適な道路環境を保つため、効率的な手法により、維持補修を実施します。

根拠法令

条例

要綱等

3.成果指標

成果目標 「予防保全」的な維持管理を実施し、道路施設の延命化やライフサイクルコストの縮減を図ります。

4.活動指標

Plan【計画】	平成27年度(現況)	3か年計画		
		平成28年度	平成29年度	平成30年度
事業内容 事業量等	市道補修等工事 市道第1003、2148、4057、 6001、7085号線 延長715m 道路ストック総点検を踏まえた道路維持保全計画の改訂	同左 市道第202、1003、2003、 2091号線 延長1,110m 舗装構造評価 (FWD)調査	同左 (道路維持保全計画に基づ く優先路線の整備)	同左 同左

5.投入指標(成果の達成、及び活動するために投入する資源【ヒト・モノ・カネ】)

①人件費 【事務執行に要する人数と1人当たりの年間業務時間】

職層・職種別	平成27年度(現況)		平成28年度		平成29年度		平成30年度	
	人数	概算時間	人数	概算時間	人数	概算時間	人数	概算時間
係長職	1人	50H	2人	225H	2人	150H	1人	75H
主事・主任職	3人	375H	2人	150H	2人	225H	3人	300H

②総事業費

事業費の内訳 (単位:千円)	平成27年度(現況)	平成28年度	平成29年度	平成30年度
事業費	39,717	38,773	51,200	51,200
人件費(係長職)	252	2,239	1,493	374
人件費(主任・主事職)	4,048	1,020	1,530	3,060
総事業費(合計)	44,017	42,032	54,223	54,634
国庫支出金	3,300	0	0	0
都支出金	1,630	2,973	7,000	7,000
受益者負担額	0	0	0	0
その他特定財源	0	0	0	0
一般会計繰入金	0	13,000	0	0
起債	0	0	0	0
一般財源(人件費含む)	39,087	26,059	47,223	47,634
財源内訳(合計)	44,017	42,032	54,223	54,634

③コスト計算

ア 市民 人における1人あたりのコストは、 円
 イ 対象者 人における1人あたりのコストは、 円
 ウ 成果物 の出来高 のコストは 円
 ※ 対象者:

Do(実行) 【進行管理】

6.実施結果(本年度における、4.活動指標と、5.投入指標の結果)

計画どおり完了 計画を見直し完了(次年度以降計画を見直す) 遅延 中断

①活動実績(Plan【計画】)及び事中評価における改善について本年度どのような活動を実施したか
 ※計画を見直し完了、遅延、中断となった場合は、理由、内容などを記入すること。

今年度、道路補修を予定していた市道第202号線外3路線(996m)について、道路維持保全計画に基づき舗装の補修等工事を実施した。
 また、平成34年までの道路舗装の修繕計画を取りまとめた実施プログラムを策定し、今後はこのプログラムに沿って、計画的に実施していくこととした。

②投入実績

決算の内訳(単位:円)	予算額(当初)	補正・流用額	予算額(最終)	決算額	執行率
事業費	38,773,000	▲1,404,000	37,369,000	37,368,000	100.0%

7.成果結果

①活動、投入実績から生じた成果(物)

前年度(今までの状況)	今年度(どういう状態になったか)
舗装構造評価(FWD)調査及び道路ストック総点検結果等を踏まえ、補修工事の優先順位を見直すため、道路維持保全計画改定業務委託を実施した。	道路維持保全計画に基づき舗装補修工事を実施し、安心で快適な道路環境整備を実施した。なお、整備対象箇所について、実施計画時においては総延長を概ね1,110mと見込んでいたが、実施設計では996mであった。 また、道路ストック点検の結果や上下水道の工事計画等を踏まえ、修繕対象路線の優先順位等を定めた「道路舗装修繕実施プログラム」を策定した。

②4.活動指標のPlan【計画】において、目標値を数値化している場合

対象者(物)	本年度:目標値	本年度:実績値
市道補修等工事	1,110m	996m

Check【評価】

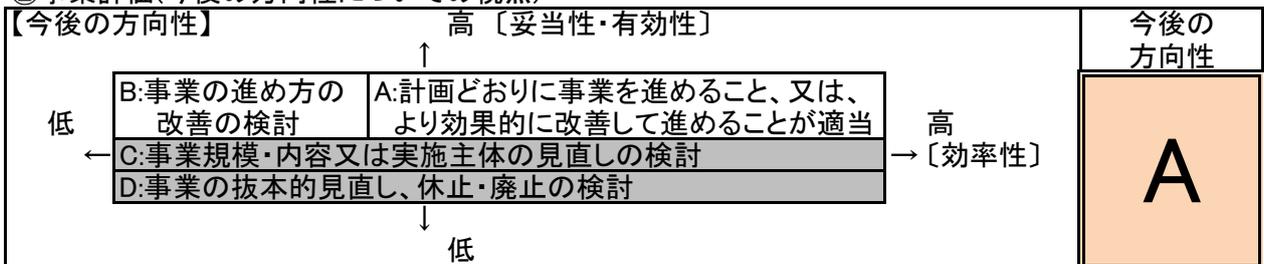
◎・・・適切であるが、今後、より効果的に改善するもの
 ○・・・適切なもの

8.評価

①事業評価(改善等、課題を発見する視点) △・・・課題があり、今後、改善が必要なもの

項目	評価のポイント	項目の着眼点	課長評価
妥当性(必要性)	・上位施策(基本目標・施策)を達成する為に必要な事業か ・今の社会情勢に見合う事業内容となっているか ・利用者・対象者のニーズ(需要)はあるか	施策体系に結びつか、事業の必要性はあるか	○
効率性(手法)	・活動手法を見直し、人件費・事業費の削減余地はないか	成果を落とさず、最少の経費・労力で事務が執行されているか	○
有効性(成果)	・事業の目標が達成されているか	成果又は効果が表れているか	○

②事業評価(今後の方向性についての視点)



Action【改善】

評価から導かれる今後の課題と方向性

評価(所管課長)

安全で快適な道路環境を維持するため、道路維持保全計画及び道路舗装修繕実施プログラムに基づき、道路の維持補修を図る。

平成28年度 【基本シート】

1.基本項目		作成部署	都市建設部		建築課		
事業名		開始年度	実施期間	事業種別	運営手法	進行管理	
2	羽村駅自由通路の拡幅等整備	平成 17 年	その他	自治事務	業務委託(全部)	○	
	01	年					
	02	年					
	03	年					
	04	年					
	05	年					
関連課		田木課・企画政策課					
基本目標	4	ひとと環境にやさしい安全で快適なまち	施策区分	29	道路	事業番号	6

2.事業の概要

事業内容	羽村駅自由通路の拡幅等について東日本旅客鉄道(株)と協議を進め、自由通路を道路施設として拡幅することで、駅利用者並びに東西地区間の通路利用者の利便性や安全性の向上を図ります。
根拠法令	
条例	
要綱等	

3.成果指標

成果目標	自由通路の拡幅により、駅利用者や東西地区への通行利用者の利便性や安全性の向上を図るとともに、駅周辺の商業等の活性化を図る。
------	---

4.活動指標

Plan【計画】	平成27年度(現況)	3か年計画		
		平成28年度	平成29年度	平成30年度
事業内容 事業量等	JR東日本八王子支社との協議・協定締結	拡幅等整備の推進	同左	同左

5.投入指標(成果の達成、及び活動するために投入する資源【ヒト・モノ・カネ】)

①人件費 【事務執行に要する人数と1人当たりの年間業務時間】

職層・職種別	平成27年度(現況)		平成28年度		平成29年度		平成30年度	
	人数	概算時間	人数	概算時間	人数	概算時間	人数	概算時間
係長職	1人	240 H	1人	240 H	1人	240 H	1人	240 H
主事・主任職	1人	240 H	1人	240 H	1人	240 H	1人	240 H

②総事業費

事業費の内訳 (単位:千円)	平成27年度(現況)	平成28年度	平成29年度	平成30年度
事業費	0	163,703	405,165	607,749
人件費(係長職)	1,210	1,194	1,194	1,194
人件費(主任・主事職)	864	816	816	816
総事業費(合計)	2,074	165,713	407,175	609,759
国庫支出金	0	0	323,124	484,687
都支出金	0	0	0	0
受益者負担額	0	0	0	0
その他特定財源	0	0	0	0
一般会計繰入金	0	0	0	0
起債	0	0	0	0
一般財源(人件費含む)	2,074	165,713	84,051	125,072
財源内訳(合計)	2,074	165,713	407,175	609,759

③コスト計算

ア 市民	56,281	人における1人あたりのコストは、	2,944	円
イ 対象者	56281	人における1人あたりのコストは、	2,944	円
ウ 成果物		の 出来高		円
※ 対象者:				

Do(実行) 【進行管理】

6.実施結果(本年度における、4.活動指標と、5.投入指標の結果)

計画どおり完了 計画を見直し完了(次年度以降計画を見直す) 遅延 中断

①活動実績(Plan【計画】)及び事中評価における改善について本年度どのような活動を実施したか
 ※計画を見直し完了、遅延、中断となった場合は、理由、内容などを記入すること。

平成27年度に全体工事の協定が締結され、平成28年度は、自由通路拡幅と店舗支障移転に関する年度協定が締結され工事に着手した。自由通路拡幅および店舗支障移転工事は、JRと調整を図りながら次年度以降も早期完成を働きかけていく。

②投入実績

決算の内訳 (単位:円)	予算額(当初)	補正・流用額	予算額(最終)	決算額	執行率
事業費	163,703,000	▲ 147,503,000	16,200,000	12,190,008	75.2%

7.成果結果

①活動、投入実績から生じた成果(物)

前年度(今までの状況)	今年度(どういう状態になったか)
JR側の安全面の確保から、東口階段改修工事が市施工で行えなくなり、自由通路と東口階段改修工事を合わせてJR側の受託工事として見直し、全体工程と工事費について協議を重ね、全体工事の協定が締結された。	自由通路拡幅と店舗支障移転に関する平成28年度協定が締結され、自由通路の拡幅および店舗移転工事に着手し、店舗の鉄骨工事が完了した。

②4.活動指標のPlan【計画】において、目標値を数値化している場合

対象者(物)	本年度:目標値	本年度:実績値

Check【評価】

8.評価

◎・・・適切であるが、今後、より効果的に改善するもの
 ○・・・適切なもの

①事業評価(改善等、課題を発見する視点) △・・・課題があり、今後、改善が必要なもの

項目	評価のポイント	項目の着眼点	課長評価
妥当性(必要性)	・上位施策(基本目標・施策)を達成する為に必要な事業か ・今の社会情勢に見合う事業内容となっているか ・利用者・対象者のニーズ(需要)はあるか	施策体系に結びつくか、事業の必要性はあるか	○
効率性(手法)	・活動手法を見直し、人件費・事業費の削減余地はないか	成果を落とさず、最少の経費・労力で事務が執行されているか	○
有効性(成果)	・事業の目標が達成されているか	成果又は効果が表れているか	○

②事業評価(今後の方向性についての視点)

【今後の方向性】		今後の方向性					
高 [妥当性・有効性]		A					
↑	高 [効率性]						
←	→						
↓	低						
低	<table border="1" style="width: 100%;"> <tr> <td style="width: 50%;">B:事業の進め方の改善の検討</td> <td style="width: 50%;">A:計画どおりに事業を進めること、又は、より効果的に改善して進めることが適当</td> </tr> <tr> <td colspan="2">C:事業規模・内容又は実施主体の見直しの検討</td> </tr> <tr> <td colspan="2">D:事業の抜本的見直し、休止・廃止の検討</td> </tr> </table>	B:事業の進め方の改善の検討	A:計画どおりに事業を進めること、又は、より効果的に改善して進めることが適当	C:事業規模・内容又は実施主体の見直しの検討		D:事業の抜本的見直し、休止・廃止の検討	
B:事業の進め方の改善の検討	A:計画どおりに事業を進めること、又は、より効果的に改善して進めることが適当						
C:事業規模・内容又は実施主体の見直しの検討							
D:事業の抜本的見直し、休止・廃止の検討							

Action【改善】

評価から導かれる今後の課題と方向性

<p>評価(所管課長)</p> <p>今後は、JR東日本に対し、東口階段部分の早期着手を働きかけるとともに、コストや全体工程を注視しながら協議を継続する。 関係省庁との調整を綿密に行い、財源の確保に努める。</p>
--

平成28年度 【基本シート】

1.基本項目		作成部署	都市建設部			土木課
事業名		開始年度	実施期間	事業種別	運営手法	進行管理
3	橋梁の耐震化	年				
01	耐震補強工事(羽村堰下橋)	年				○
02	耐震補強工事(堂橋)	年				○
03		年				
04		年				
05		年				
関連課						
基本目標	4	ひとと環境にやさしい安全で快適なまち		施策区分	29	道路
				事業番号		5

2.事業の概要

事業内容	震災時の避難路・運搬路となる橋梁の安全・安心を確保するため、橋梁の耐震化を図ります。
根拠法令	
条例	
要綱等	

3.成果指標

成果目標	橋梁の長寿命化が図れるとともに、安全性・信頼性を確保することができる。
------	-------------------------------------

4.活動指標

Plan【計画】	平成27年度(現況)	3か年計画		
		平成28年度	平成29年度	平成30年度
事業内容 事業量等	耐震補強等工事 羽村堰下橋	同左 堂橋	同左 羽村橋	

5.投入指標(成果の達成、及び活動するために投入する資源【ヒト・モノ・カネ】)

①人件費 【事務執行に要する人数と1人当たりの年間業務時間】

職層・職種別	平成27年度(現況)		平成28年度		平成29年度		平成30年度	
	人数	概算時間	人数	概算時間	人数	概算時間	人数	概算時間
係長職	0人	0H	1人	525H	1人	300H	0人	0H
主事・主任職	1人	560H	0人	0H	0人	0H	0人	0H

②総事業費

事業費の内訳 (単位:千円)	平成27年度(現況)	平成28年度	平成29年度	平成30年度
事業費	141,426	9,150	15,700	0
人件費(係長職)	0	2,612	1,493	0
人件費(主任・主事職)	2,015	0	0	0
総事業費(合計)	143,441	11,762	17,193	0
国庫支出金	63,800	4,180	7,920	0
都支出金	0	0	0	0
受益者負担額	0	0	0	0
その他特定財源	0	3,000	0	0
一般会計繰入金	0	0	0	0
起債	0	0	0	0
一般財源(人件費含む)	79,641	4,582	9,273	0
財源内訳(合計)	143,441	11,762	17,193	0

③コスト計算

ア 市民 人における1人あたりのコストは、 円
 イ 対象者 人における1人あたりのコストは、 円
 ウ 成果物 の出来高 のコストは 円
 ※ 対象者:

平成28年度 【基本シート】

1.基本項目		作成部署	都市建設部			土木課
事業名		開始年度	実施期間	事業種別	運営手法	進行管理
4	セットバックの促進と隅切り整備	不明 年	継続	自治事務(市独自)	業務委託(全部)	
01	セットバック部分等の舗装	不明 年	継続	自治事務(市独自)	業務委託(全部)	
02	市道第6117号線測量及び設計等委託	平成 28 年	その他	自治事務(市独自)	業務委託(全部)	
03	市道第5013号線隅切り等設置	平成 28 年	今年度限り	自治事務(市独自)	業務委託(一部)	○
04		年				
05		年				
関連課						
基本目標 4	ひとと環境にやさしい安全で快適なまち	施策区分	29	道路	事業番号	2

2.事業の概要

事業内容	狭あいな道路のセットバックを促進するとともに、通行に支障のある交差点について隅切りの整備を進めます。
根拠法令	
条例	
要綱等	

3.成果指標

成果目標	建築基準法に基づくセットバック等について、積極的に市民に周知し、狭あい道路の減少につなげていく。
------	--

4.活動指標

Plan【計画】	平成27年度(現況)	3か年計画		
		平成28年度	平成29年度	平成30年度
事業内容 事業量等	セットバック部分等の舗装 面積 280㎡ 延長 240m	同左 面積 280㎡ 延長 240m 市道第6117号線測量及び設計等委託 市道第5013号線隅切り等設置工事・測量・用地取得・地上物件補償 面積24㎡	同左 面積 280㎡ 延長 240m 市道第6117号線道路拡幅工事	同左 面積 280㎡ 延長 240m

5.投入指標(成果の達成、及び活動するために投入する資源【ヒト・モノ・カネ】)

①人件費 【事務執行に要する人数と1人当たりの年間業務時間】

職層・職種別	平成27年度(現況)		平成28年度		平成29年度		平成30年度	
	人数	概算時間	人数	概算時間	人数	概算時間	人数	概算時間
係長職	1 人	15 H	2 人	225 H	1 人	100 H	1 人	15 H
主事・主任職	2 人	150 H	2 人	150 H	2 人	150 H	2 人	150 H

②総事業費

事業費の内訳 (単位:千円)	平成27年度(現況)	平成28年度	平成29年度	平成30年度
事業費	3,000	27,125	52,815	3,055
人件費(係長職)	76	2,239	498	75
人件費(主任・主事職)	1,080	1,020	1,020	1,020
総事業費(合計)	4,156	30,384	54,333	4,150
国庫支出金	0	0	0	0
都支出金	0	0	20,380	0
受益者負担額	0	0	0	0
その他特定財源	0	15,000	0	0
一般会計繰入金	0	0	0	0
起債	0	0	0	0
一般財源(人件費含む)	4,156	15,384	33,953	4,150
財源内訳(合計)	4,156	30,384	54,333	4,150

③コスト計算

ア 市民 人における1人あたりのコストは、 円
 イ 対象者 人における1人あたりのコストは、 円
 ウ 成果物 の出来高 のコストは 円
 ※ 対象者:

Do(実行) 【進行管理】

6.実施結果(本年度における、4.活動指標と、5.投入指標の結果)

計画どおり完了 計画を見直し完了(次年度以降計画を見直す) 遅延 中断

①活動実績(Plan【計画】)及び事中評価における改善について本年度どのような活動を実施したか
 ※計画を見直し完了、遅延、中断となった場合は、理由、内容などを記入すること。

「狭あい道路等整備方針」に基づき、セットバック部分(358㎡)の舗装を行った。
 平成29年度に実施する市道第6117号線道路拡幅工事のため、測量及び設計等委託、不動産鑑定、補償物件調査を実施した。
 市道第5013号線については、測量、用地取得、地上物件補償及び隅切り等設置工事を実施し狭あいな道路の解消を図った。

②投入実績

決算の内訳 (単位:円)	予算額(当初)	補正・流用額	予算額(最終)	決算額	執行率
事業費	27,125,000	3,887,000	31,012,000	28,708,564	92.6%

7.成果結果

①活動、投入実績から生じた成果(物)

前年度(今までの状況)	今年度(どういう状態になったか)
市民に対し広報及び市公式サイトにおいて、建築基準法に基づくセットバック等について周知するとともに、セットバック部等の舗装を行い、狭あい道路の整備を図った。	引き続き市民に対し広報及び市公式サイトにおいて、建築基準法に基づくセットバック等について周知するとともに、セットバック部等の舗装を実施した。 また、市道第5013号線の隅切り等設置工事を完了し、狭あい道路の整備を図った。

②4.活動指標のPlan【計画】において、目標値を数値化している場合

対象者(物)	本年度:目標値	本年度:実績値
セットバック部分の舗装	面積 280㎡	面積 358㎡

Check(評価)

◎・・・適切であるが、今後、より効果的に改善するもの

8.評価

○・・・適切なもの

①事業評価(改善等、課題を発見する視点) △・・・課題があり、今後、改善が必要なもの

項目	評価のポイント	項目の着眼点	課長評価
妥当性 (必要性)	・上位施策(基本目標・施策)を達成する為に必要な事業か ・今の社会情勢に見合う事業内容となっているか ・利用者・対象者のニーズ(需要)はあるか	施策体系に結びつくか、事業の必要性はあるか	○
効率性 (手法)	・活動手法を見直し、人件費・事業費の削減余地はないか	成果を落とさず、最少の経費・労力で事務が執行されているか	○
有効性 (成果)	・事業の目標が達成されているか	成果又は効果が表れているか	○

②事業評価(今後の方向性についての視点)

【今後の方向性】		高 [妥当性・有効性]	高 [効率性]	今後の方向性					
低	<table border="1" style="width: 100%;"> <tr> <td>B:事業の進め方の改善の検討</td> <td>A:計画どおりに事業を進めること、又は、より効果的に改善して進めることが適当</td> </tr> <tr> <td colspan="2">C:事業規模・内容又は実施主体の見直しの検討</td> </tr> <tr> <td colspan="2">D:事業の抜本的見直し、休止・廃止の検討</td> </tr> </table>	B:事業の進め方の改善の検討	A:計画どおりに事業を進めること、又は、より効果的に改善して進めることが適当	C:事業規模・内容又は実施主体の見直しの検討		D:事業の抜本的見直し、休止・廃止の検討		高	A
B:事業の進め方の改善の検討	A:計画どおりに事業を進めること、又は、より効果的に改善して進めることが適当								
C:事業規模・内容又は実施主体の見直しの検討									
D:事業の抜本的見直し、休止・廃止の検討									
		低							

Action【改善】

評価から導かれる今後の課題と方向性

評価(所管課長) 狭あい道路のセットバックを促進するとともに、交差点の隅切り整備等を進め、狭あいな道路の解消を図り、市民生活の利便性と安全性の向上を図る。
--

平成28年度 【基本シート】

1.基本項目		作成部署	都市建設部			土木課
事業名		開始年度	実施期間	事業種別	運営手法	進行管理
5	奥多摩街道間坂交差点整備に伴う周辺道路(市道第203号線)の整備	平成 25 年	その他	自治事務	業務委託(一部)	
	01	年				
	02	年				
	03	年				
	04	年				
	05	年				
関連課						
基本目標	4	ひとと環境にやさしい安全で快適なまち	施策区分	29	道路	事業番号 7

2.事業の概要

事業内容	東京都が行う都道29号線(奥多摩街道)間坂交差点改良工事に併せて、これに接続する市道整備工事を行います。
根拠法令	
条例	
要綱等	

3.成果指標

成果目標	奥多摩街道交差点はカーブがきつく視界が悪いため、交通事故が多発している。また、歩行者が交差点を横断する際にも非常に危険な状態である。さらに、奥多摩街道(上下線)から接続する市道への右折車両による渋滞が発生している。このようなことから、都施工による奥多摩街道拡幅に併せ、市道第203号線の道路線形等を改良して交通安全の向上を図る必要がある。
------	---

4.活動指標

Plan【計画】	平成27年度(現況)	3か年計画		
		平成28年度	平成29年度	平成30年度
事業内容 事業量等	用地買収 物件補償 設計委託 拡幅工事	都道道路改良工事の進捗状況により実施	同左	同左

5.投入指標(成果の達成、及び活動するために投入する資源【ヒト・モノ・カネ】)

①人件費【事務執行に要する人数と1人当たりの年間業務時間】

職層・職種別	平成27年度(現況)		平成28年度		平成29年度		平成30年度	
	人数	概算時間	人数	概算時間	人数	概算時間	人数	概算時間
係長職	1人	80H	1人	30H	1人	30H	1人	30H
主事・主任職	1人	80H	0人	0H	0人	0H	0人	0H

②総事業費

事業費の内訳(単位:千円)	平成27年度(現況)	平成28年度	平成29年度	平成30年度
事業費	44,032	0	0	0
人件費(係長職)	404	150	150	150
人件費(主任・主事職)	288	0	0	0
総事業費(合計)	44,724	150	150	150
国庫支出金	0	0	0	0
都支出金	6,300	0	0	0
受益者負担額	0	0	0	0
その他特定財源	8,000	0	0	0
一般会計繰入金	0	0	0	0
起債	0	0	0	0
一般財源(人件費含む)	30,424	150	150	150
財源内訳(合計)	44,724	150	150	150

③コスト計算

ア 市民 人における1人あたりのコストは、 円
 イ 対象者 人における1人あたりのコストは、 円
 ウ 成果物 の出来高 のコストは 円

※ 対象者:

Do(実行) 【進行管理】

6.実施結果(本年度における、4.活動指標と、5.投入指標の結果)

計画どおり完了 計画を見直し完了(次年度以降計画を見直す) 遅延 中断

①活動実績(Plan【計画】)及び事中評価における改善について本年度どのような活動を実施したか
 ※計画を見直し完了、遅延、中断となった場合は、理由、内容などを記入すること。

東京都では都道29号線(奥多摩街道)間坂交差点の改良事業について実施しているが、事業の進捗状況により、東京都と連携し市道部の改良工事を実施することとしている。
 (平成28年度は工事実績なし)

②投入実績

決算の内訳 (単位:円)	予算額(当初)	補正・流用額	予算額(最終)	決算額	執行率
事業費	0	0	0	0	-

7.成果結果

①活動、投入実績から生じた成果(物)

前年度(今までの状況)	今年度(どういう状態になったか)
間坂交差点の改良事業に伴い、東京都と調整を図り、市道第203号線間坂街道の拡幅工事等を実施した。	間坂交差点の改良事業の進捗により、東京都と調整を図り実施していく。

②4.活動指標のPlan【計画】において、目標値を数値化している場合

対象者(物)	本年度:目標値	本年度:実績値

Check【評価】

8.評価

◎・・・適切であるが、今後、より効果的に改善するもの

○・・・適切なもの

①事業評価(改善等、課題を発見する視点) △・・・課題があり、今後、改善が必要なもの

項目	評価のポイント	項目の着眼点	課長評価
妥当性(必要性)	・上位施策(基本目標・施策)を達成する為に必要な事業か ・今の社会情勢に見合う事業内容となっているか ・利用者・対象者のニーズ(需要)はあるか	施策体系に結びつくか、事業の必要性はあるか	○
効率性(手法)	・活動手法を見直し、人件費・事業費の削減余地はないか	成果を落とさず、最少の経費・労力で事務が執行されているか	○
有効性(成果)	・事業の目標が達成されているか	成果又は効果が表れているか	○

②事業評価(今後の方向性についての視点)

【今後の方向性】		今後の方向性
高 [妥当性・有効性]		A
↑	高 [効率性]	
低	低	
←	→	
B:事業の進め方の改善の検討	A:計画どおりに事業を進めること、又は、より効果的に改善して進めることが適当	
C:事業規模・内容又は実施主体の見直しの検討	D:事業の抜本的見直し、休止・廃止の検討	

Action【改善】

評価から導かれる今後の課題と方向性

評価(所管課長)
東京都が実施している奥多摩街道間坂交差点改良事業に伴い、事業の進捗状況により東京都と調整を図り必要に応じて市道部の改良事業を実施する。